

核融合について学び・発信するフュージョンエネルギー学校事業
2025年度核融合科学研究所スクーリング・ネットワーキング事業・Fusion Science School

STEAM教育で核融合リテラシーを高めよう

フュージョンエネルギーを社会にどう「接続」するか

森 健一郎

北海道教育大学釧路校／教職大学院担当
mori.kenichiro@k.hokkyodai.ac.jp

1

研修会のゴール(SDGsとの関連)

私たちの共通ゴール:持続可能な社会(SDGs)の構築

核融合研究は、エネルギー問題解決の「鍵」。

しかし、優れた技術だけでは社会は変わらない。

「技術(専門知)」を「社会(非専門家)」といかに繋ぐかという「コミュニケーション・デザイン」が必要。

→ STEAM教育の**枠組み**の活用

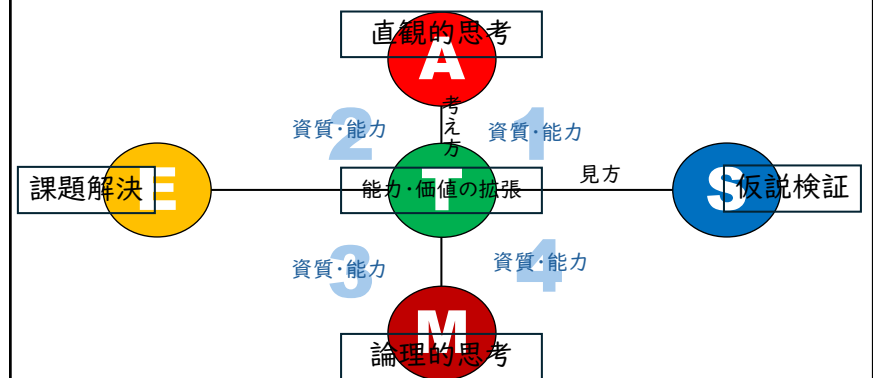
2

STEAMの各分野のイメージ

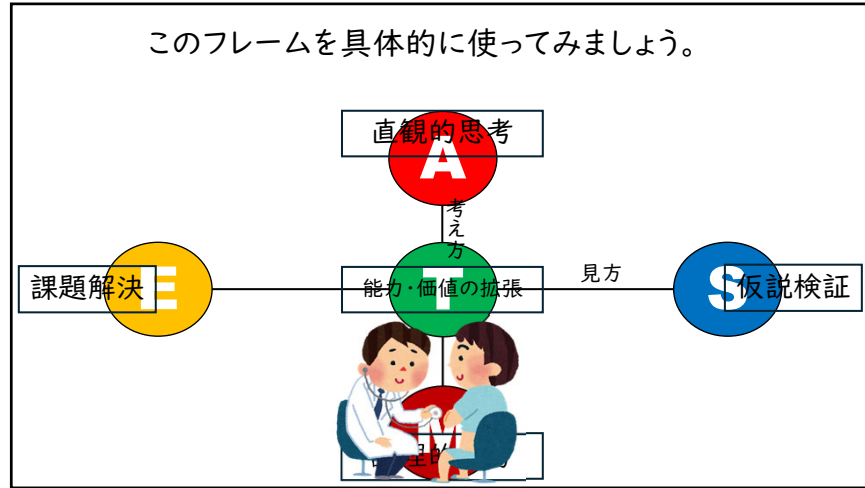


3

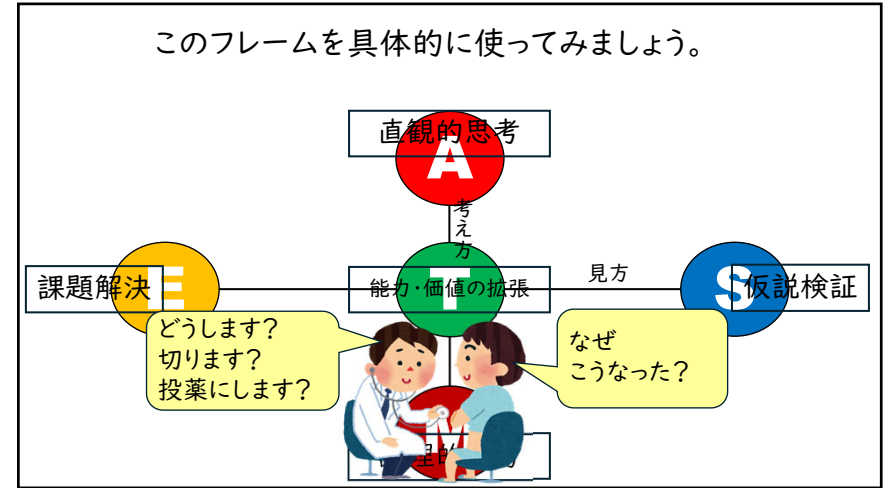
STEAM教育の枠組み



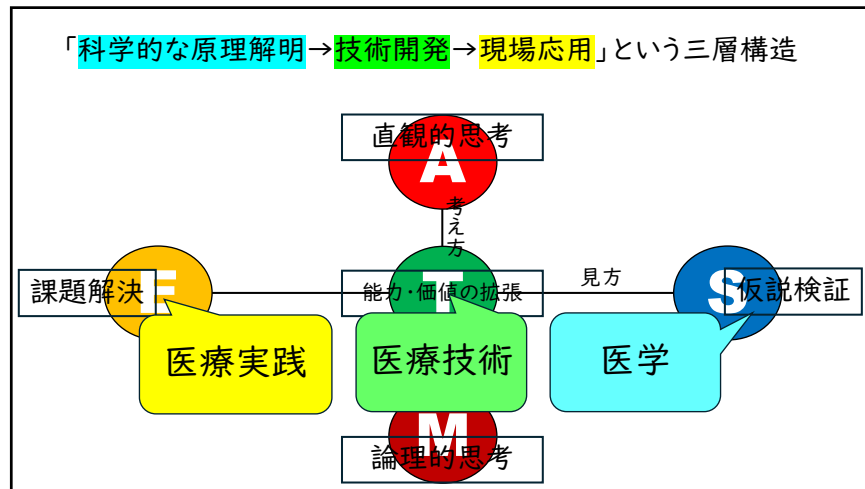
4



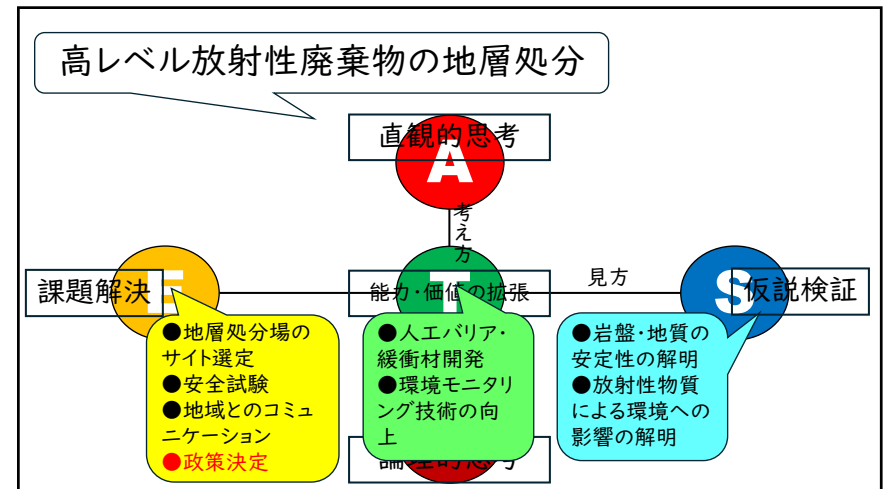
5



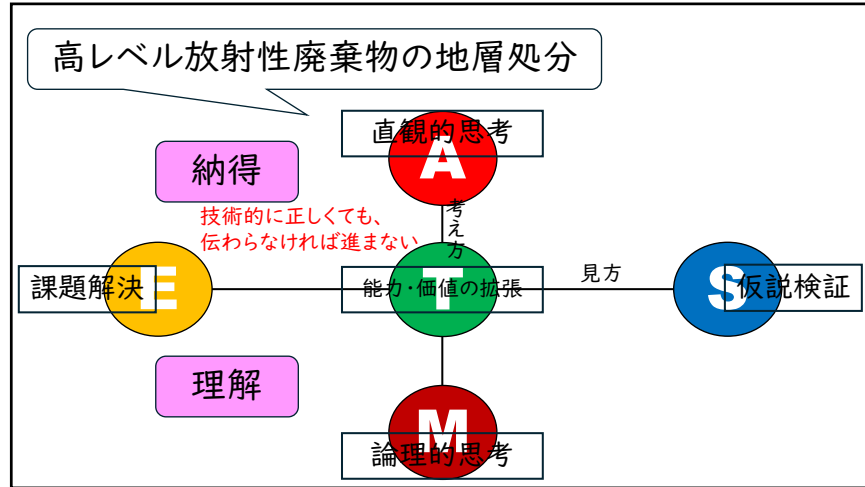
6



7



8



9

専門知と社会のギャップ

専門家の「当たり前」は、社会の「当たり前」ではない

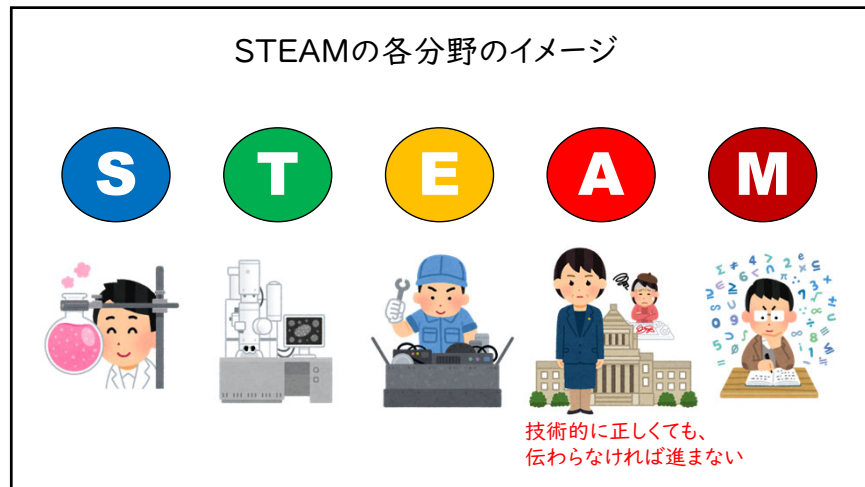
専門家: 論理、データ、検証を重視 (正確さの追求) **理解**

一般市民・子供: 直観、感情、生活実感を重視 **納得**
(分かりやすさ・安心の追求)

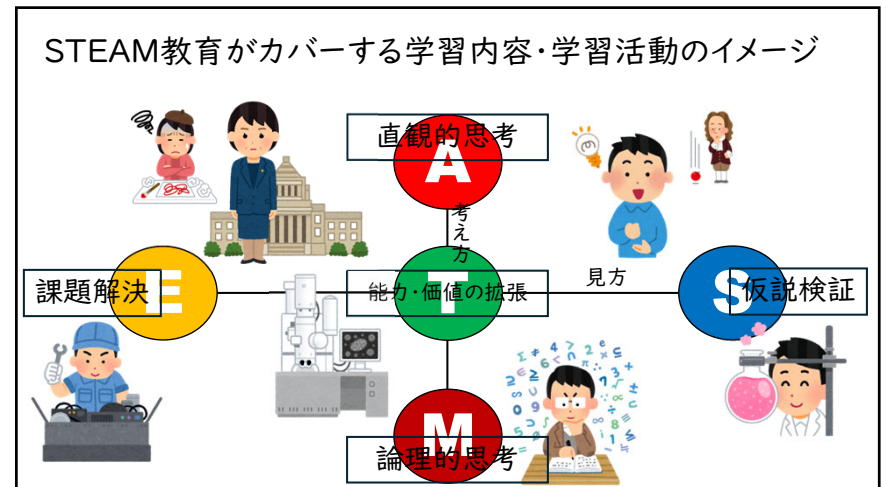
↑

この「言語の違い」が、エネルギー問題の合意形成を難しくしている。技術的に正しくても、伝わらなければ進まない

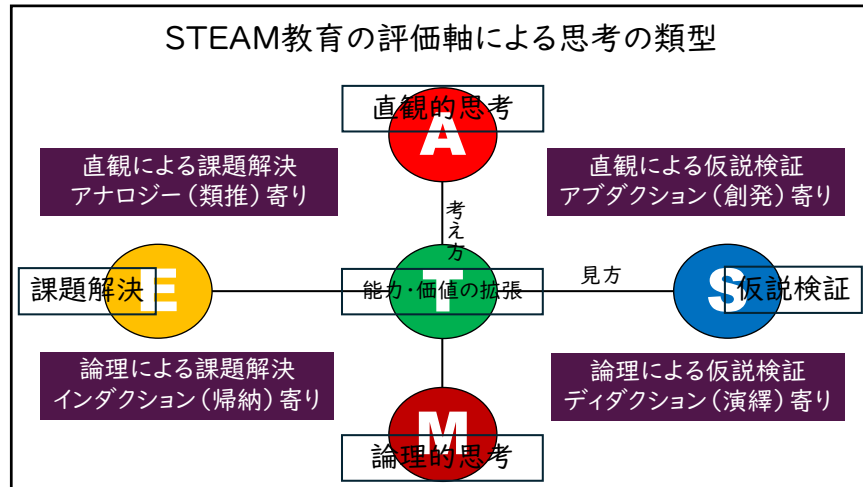
10



11



12



13

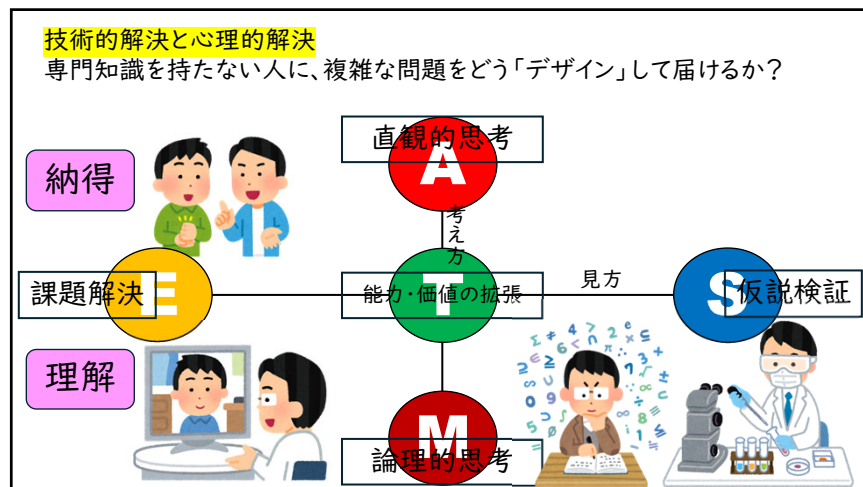
本研修のねらい

SDGs(持続可能な未来)のために、核融合という「専門知」を開く。

論理(Logic)と直観(Intuition)を行き来する。

それが、今回目指すSTEAM教育による「コミュニケーション・デザイン」です。

14



15

具体的なアウトプット

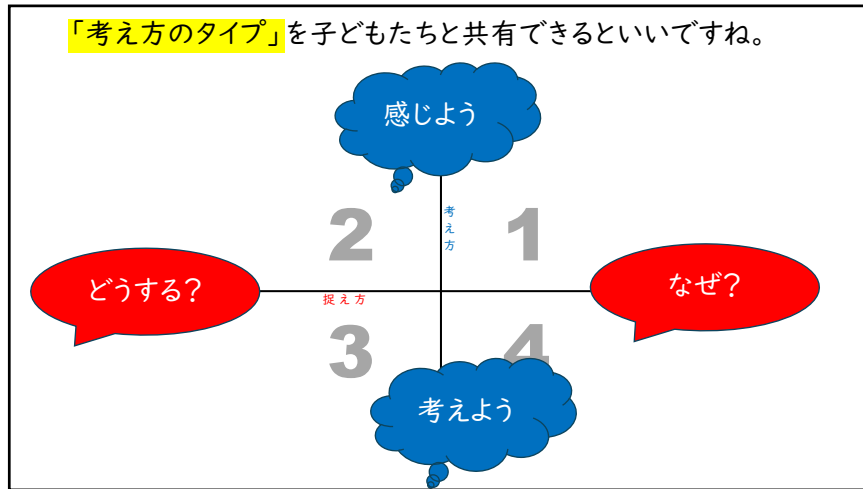
【専門家・専門学部生】

「市民向けセミナー案」を作成
一般の方の興味を引く構成・導入・キャッチコピーは？

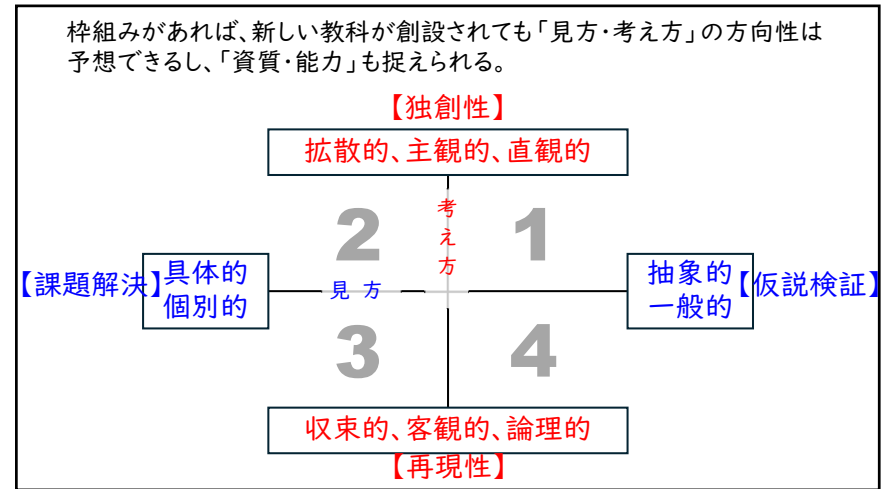
【教員・教育学部生】

「授業案(指導計画案)」を作成
子供たちが主体的・対話的に学ぶための仕掛けは？

16



17



18